

# 大学生活を通して保育士・教諭として身に付く 資質・能力に関する考察 ～Big Five 尺度を用いた性格特性との関わりに着目して～

齋藤陽子, 佐々木恵理, 土井のぞみ, 吉村希至

岐阜女子大学 文化創造学部

(2019年12月12日受理)

## Consideration on Qualities and Abilities that can be Acquired as a Childcare Teacher · Teacher through University Life ～Focusing on the Relationship with Personality Traits Using the Big Five Scale～

Faculty of Cultural Development, Gifu Women's University

SAITO Yoko, SASAKI Eri, DOI Nozomi, YOSHIMURA Mareshi

(Received December 12, 2019)

### 要 旨

本研究は、初等教育学専攻で学生自身は保育士・教諭としての資質・能力をどれほど身に付けることができたかと日頃感じているのか、学生の性格特性との関わりに着目して明らかにすることを目的としている。その結果、保育士・教諭としての行動に関わり性格との関係性が強いことが明らかとなった。

キーワード：保育士 教諭 Big Five 尺度 専攻の活動 資質・能力

### I. はじめに

近年保育士や教員に対する「質の向上」が求められている。その中で、教員にかかわっては、教育公務員特例法が新たに平成29年3月31日に公布、4月1日より施行されている。その内容は、都道府県教育委員会等に作成等が義務付けられた、教員の職責、経験及び適正に応じて向上を図るべき資質に関する指標、協議会及び教員研修計画の作成である。一方保育士においても平成24年8月に成立した子ども子育て支援法にもとづいて現在実施

されている子ども子育て支援新制度でも保育の質の問題が検討されている。この保育の質を確保するためには、保育士の待遇改善が求められる一方、保育士としての資質・能力向上への取り組みも求められている。平成29年3月31日に告示された「保育所保育指針」においては、職員の資質向上が個人の自己研鑽のみに留まらず、園としての組織的な取り組みが一層求められるようになってきている。さらには、保育士になるまでの過程、つまりは、保育士養成課程においてより一層の教育内容の充実を図ることにより、保育士の資質・能

力の向上を期待する声も大きいのは事実である。

このような現状の中、保育士・教諭の養成課程である初等教育学専攻において、保育士・教諭としての資質・能力の確実な獲得のために、適切なカリキュラムの運用が求められる。

そこで、本研究では、初等教育学専攻学生が保育士・教諭としての資質・能力を自分自身でどのように身につけていると捉えているのか、また、個人の性格特性とその捉えの関係性はあるのか、について検討したので、報告する。

## II. 研究目的

本研究は、保育士・教諭を目指す初等教育学専攻学生が保育士・教諭としての資質・能力を自分がどれほど獲得できていると認知しているのか、専攻で取り組む活動を行うことによりその認知に変化があるのかを明らかにすることを目的とする。加えて、その認知は、本人の性格特性と関わりがあるのかを検討していくことを目的とする。

## III. 研究方法

研究方法は、質問紙法によるアンケート調査の実施である。アンケート調査の実施概要は次のとおりである。

- (1) 調査対象：岐阜女子大学初等教育学専攻1～3年生、72名
- (2) 調査期間：2019年7月7日～16日
- (3) 調査方法：質問紙法
- (4) 回収率：65名(約90%)
- (5) 倫理的配慮：

本研究遂行にあたり、調査対象者への趣旨の十分な説明を行うと共に、プライバシーに対する配慮をしている。

## (6) 調査内容：

調査内容は、大きく3つの柱を持っている。「1. 保育者・教育者としての資質・能力について」、「2. 自分自身の能力について」、「Big Five 尺度」である。質問1・2の具体的な内容は表1・2のとおりである。質問1・2は各々、「1：全く身に付いていない、2：あまり身に付いていない、3：まあ身に付いた 4：とても身に付いた」の4件法にて尋ねている。

表1 保育士・教諭としての資質・能力に関する質問

1. 保育者・教育者としての資質・能力について	
1：全く身に付いていない	
2：あまり身に付いていない	
3：まあ身に付いた	
4：とても身に付いた	
番号	項目
1	保育士・教諭としての使命感
2	保育・教育への情熱
3	子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力
4	子どもの成長・発達への理解
5	子どもへの愛情
6	保育内容に関する専門的知識
7	豊かな教養
8	クラス経営への知識
9	クラス経営への実践力
10	保健衛生の専門的知識
11	自分の行動への責任感
12	自主的に行動できる力
13	豊かな創造力
14	何でも挑戦する情熱
15	思いやりの心
16	報告・連絡・相談を実行する力
17	豊かな感性
18	子どもが好き
19	心身の健康
20	子どもの行動を受容し認める力
21	適切な心情理解と遊び・生活の援助
22	的確な判断力
23	臨機応変な行動力
24	笑顔がある
25	子どもの目線に立てる
26	教育・保育実践に関する研究と自己研鑽の力
27	運営において全体を見通し支える力
28	子どもの意欲を高める能力

表2 自分自身の能力に関する質問

2. 自分自身の能力について	
1: 全く身に付いていない	
2: あまり身に付いていない	
3: まあ身に付いた	
4: とても身に付いた	
番号	項目
1	衣装のアイデアを出す力
2	音響機械が操作する力
3	歌詞や振り付けを考える力
4	衣装をリメイクする力
5	楽器を効果的に使う力
6	気持ちの切り替えをする力
7	協働する力
8	子どもに伝わる言葉が分かる・使える力
9	裁縫道具を使って様々な縫い方が出来る力
10	材料・廃材を活かして物を作る力
11	主体的な行動をとる力
12	場面に合う色・明るさを考える力
13	照明機械の操作する力
14	全体を見通す力
15	他人の意見を聞く力
16	道具・背景のアイデアを出す力
17	童謡や子どもの歌が分かる・歌える力
18	役に合う道具・物を考える力
19	場面のイメージを持つ力
20	ピアノで音取りをする力
21	表現する力
22	ミシンを使って衣装を作る力
23	身の回りの道具を活用する力
24	目標・計画を立てる力
25	物の色や大きさを考える力
26	役に合う衣装を考える力

Big Five 尺度は、和田（1996）の形容詞尺度を活かした、性格特性の基本5次元を簡便に測定できる計60項目の尺度を活用した。

なお、本調査を行った時期は、初等教育学専攻として取り組んでいる「ミュージカル活動」（ミュージカルの上演を学生が地域の子どもたち向けに実施する活動、以下「専攻の活動」とする。）の終わった直後である。活動前の状態も合わせて尋ねている。また、質問2の自分自身の能力については、本活動における特徴ある能力も尋ねている。

#### IV. 研究結果

質問1. 保育者・教育者としての資質・能力については、表3の結果となった。

表3. 1. 保育者・教育者としての資質・能力の結果

質問番号	活動前 平均 (標準偏差)	活動後 平均 (標準偏差)	前後差	t 検定 有意差
1	2.65 (.09)	3.20 (0.08)	0.55	**
2	2.94 (.09)	3.39 (0.08)	0.45	**
3	2.49 (.09)	3.15 (0.09)	0.66	**
4	2.59 (.09)	3.00 (0.08)	0.41	**
5	3.29 (.12)	3.64 (0.08)	0.35	**
6	2.25 (.07)	2.66 (0.09)	0.42	**
7	2.32 (.09)	2.74 (0.10)	0.42	**
8	2.15 (.08)	2.68 (0.10)	0.52	**
9	2.11 (.08)	2.65 (0.10)	0.54	**
10	1.94 (.09)	2.26 (0.11)	0.32	**
11	2.71 (.09)	3.37 (0.09)	0.66	**
12	2.66 (.08)	3.32 (0.09)	0.67	**
13	2.52 (.08)	3.11 (0.09)	0.59	**
14	2.53 (.08)	3.08 (0.10)	0.55	**
15	2.94 (.09)	3.42 (0.08)	0.48	**
16	2.72 (.10)	3.35 (0.09)	0.64	**
17	2.64 (.08)	3.17 (0.09)	0.53	**
18	3.42 (.11)	3.67 (0.09)	0.25	**
19	2.92 (.11)	3.08 (0.11)	0.16	ns
20	2.83 (.09)	3.15 (0.10)	0.32	**
21	2.45 (.08)	2.86 (0.08)	0.42	**
22	2.40 (.07)	2.95 (0.09)	0.55	**
23	2.54 (.09)	3.09 (0.10)	0.55	**
24	3.14 (.11)	3.45 (0.11)	0.31	**
25	2.78 (.09)	3.35 (0.10)	0.57	**
26	2.36 (.08)	2.71 (0.09)	0.35	**
27	2.38 (.08)	2.88 (0.09)	0.50	**
28	2.39 (.09)	2.88 (0.09)	0.49	**

N= 65

\*\* $p < .01$  \* $p < .05$

質問2の自分自身の能力については、表4の結果となった。

表4. 2. 自分自身の能力の結果

質問番号	活動前 平均 (標準偏差)	活動後 平均 (標準偏差)	前後差	t検定 有意差
1	1.78 (.11)	2.11 (.13)	0.33	ns
2	1.33 (.08)	1.75 (.14)	0.41	ns
3	1.81 (.11)	2.37 (.14)	0.56	ns
4	1.65 (.11)	1.90 (.14)	0.25	ns
5	1.54 (.10)	1.84 (.13)	0.30	ns
6	2.31 (.10)	2.97 (.11)	0.66	ns
7	2.76 (.11)	3.22 (.10)	0.46	ns
8	2.55 (.10)	3.05 (.12)	0.50	ns
9	2.10 (.13)	2.22 (.15)	0.13	ns
10	2.11 (.11)	2.52 (.14)	0.41	ns
11	2.45 (.11)	2.89 (.12)	0.44	ns
12	1.66 (.11)	2.16 (.15)	0.50	ns
13	1.38 (.09)	1.76 (.15)	0.38	ns
14	2.14 (.09)	2.75 (.10)	0.61	ns
15	2.78 (.09)	3.38 (.08)	0.59	ns
16	1.87 (.10)	2.19 (.14)	0.32	ns
17	2.42 (.11)	3.08 (.12)	0.66	ns
18	1.94 (.10)	2.38 (.14)	0.44	ns
19	2.16 (.10)	2.84 (.14)	0.68	ns
20	1.89 (.13)	2.11 (.15)	0.22	ns
21	2.08 (.10)	2.78 (.14)	0.70	ns
22	1.78 (.13)	1.94 (.15)	0.16	ns
23	2.00 (.11)	2.33 (.14)	0.33	ns
24	2.25 (.10)	2.84 (.11)	0.59	ns
25	2.02 (.11)	2.38 (.13)	0.37	ns
26	1.89 (.12)	2.17 (.15)	0.29	ns

N=65  
\*\* $p < .01$  \* $p < .05$

保育者・教育者としての資質・能力は、専攻の活動前より後の方が全ての項目において向上している。その差についてもt検定(対応のある)を行ったところ、「19.心身の健康」以外は、1%水準で有意差が認められた。一

方、質問2の自分自身の能力については、全ての項目において有意な差が認められなかった。

質問1の保育士・教諭としての資質・能力の28項目について、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。その結果3因子が抽出された(表5)。因子1を「保育士・教諭としての行動力」、因子2を「保育士・教諭としての心」、因子3を「保育士・教諭としての知識」と命名した。

因子1は12項目で構成されており、「23.臨機応変な行動力」、「22.的確な判断力」、「12.自主的に行動できる力」など自分の行動にかかわる内容の項目に高い負荷量を示したため、「保育士・教諭としての行動力」因子と命名した。

因子2は9項目で構成されており、「5.子どもへの愛情」、「20.子どもの行動を受容し認める力」、「18.子どもが好き」、「2.保育・教育への情熱」など子どもへの愛情や保育・教育への熱意にかかわる内容の項目に高い負荷量を示したため「保育士・教諭としての心」因子と命名した。

因子3は4項目で構成されており、「7.豊かな教養」、「3.子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力」、「4.子どもの成長・発達への理解」、「6.保育内容に関する専門的知識」の項目であり、どれも保育や教育にかかわる知の内容であったため「保育士・教諭としての知識」因子と命名した。

その因子での専攻の活動前後の差は、全て向上していた。t検定(対応のある)を行ったところ、3因子とも1%水準で有意差が認められた(表6)。

表5. 保育者・教育者としての資質・能力の因子分析

質問項目	I	II	III
因子1：保育士・教諭としての行動力			
23. 臨機応変な行動力	.75	.19	.15
22. 的確な判断力	.73	.24	.40
24. 笑顔がある	.70	.50	.25
12. 自主的に行動できる力	.68	.27	.47
11. 自分の行動への責任感	.67	.30	.45
8. クラス経営への知識	.66	.03	.73
9. クラス経営への実践力	.65	-.01	.50
14. 何でも挑戦する情熱	.64	.23	.28
16. 報告・連絡・相談を実行する力	.62	.24	-.01
27. 運営において全体を見通し支える力	.58	-.15	.52
26. 教育・保育実践に関する研究と自己研鑽の力	.58	.18	.49
28. 子どもの意欲を高める能力	.56	.28	.54
因子2：保育士・教諭としての心			
5. 子どもへの愛情	.17	.78	.23
20. 子どもの行動を受容し認める力	.24	.74	.38
18. 子どもが好き	.17	.73	.13
2. 保育・教育への情熱	.12	.71	.28
19. 心身の健康	.26	.64	.20
15. 思いやりの心	.29	.57	-.05
25. 子どもの目線に立てる	.41	.53	.40
1. 保育士・教諭としての使命感	.20	.50	.30
21. 適切な心情理解と遊び・生活の援助	.34	.49	.35
因子3：保育士・教諭としての知識			
7. 豊かな教養	.38	.27	.77
3. 子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力	.22	.39	.75
4. 子どもの成長・発達への理解	.13	.42	.68
6. 保育内容に関する専門的知識	.37	.21	.63
因子間相	I	—	.68
	II	.68	—
	III	.26	.40

表6. 1. 保育士・教諭としての資質・能力  
 ～因子毎の結果～

因子	活動前 平均 (標準偏差)	活動後 平均 (標準偏差)	前後差	t 検定 有意差
1	2.51 (.48)	3.03 (.57)	0.5	**
2	2.91 (.54)	3.30 (.51)	0.4	**
3	2.41 (.55)	2.88 (.60)	0.5	**

N=65

\*\* $p < .01$  \* $p < .05$

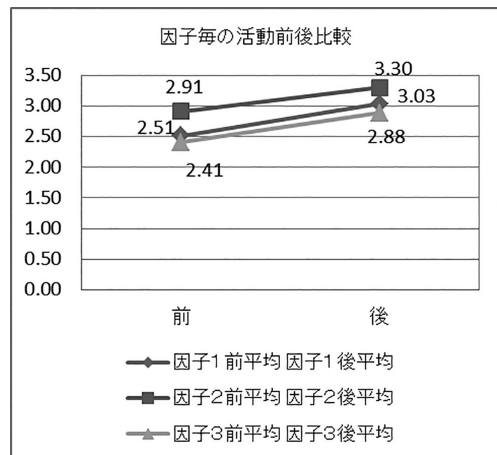


図1. 因子毎の活動前後の比較

質問1の項目から抽出された3因子に対して、専攻の活動前後で Big Five 性格特性との相関係数を算出した(表7・8)。その結果、専攻の活動前は「保育士・教諭としての行動力」は、外向性 (.48,  $p<.01$ ), 開放性 (.41,  $p<.01$ ), 誠実性 (.43,  $p<.01$ ), 調和性 (.32,  $p<.01$ ), 「保育士・教諭としての心」は、外向性 (.26,  $p<.05$ ), 調和性 (.43,  $p<.01$ ), と有意な正の相関がみられた。「保育士・教諭としての知識」は、全ての Big Five 性格特性の尺度との相関はみられなかった。

専攻の活動後は「保育士・教諭としての行動力」は、外向性 (.62,  $p<.01$ ), 開放性 (.52,  $p<.01$ ), 誠実性 (.47,  $p<.01$ ), 調和性 (.36,  $p<.01$ ), 「保育士・教諭としての心」は、外向性 (.50,  $p<.01$ ), 開放性 (.25,  $p<.05$ ), 誠実性 (.29,  $p<.05$ ), 調和性 (.50,  $p<.01$ ), 「保育士・教諭としての知識」は、外向性 (.29,  $p<.05$ ) において有意な正の相関がみられた。

## V. 考 察

本研究においては、保育士・教諭を目指す初等教育学専攻学生が、専攻で取り組んでいる活動(今回は、ミュージカル活動)において、保育士・教諭としての資質・能力獲得のとらえ、そのとらえが、活動の前後でどのように変化をするのかをみてきた。そこから、「心身の健康」にかかわっては、活動におけ

る影響がないことがわかった。しかしその他27項目においては、活動後の方が有意に高く認知していることが明らかとなった。

さらにこの資質・能力を因子分析して得た3因子と Big Five 性格特性との関係性においては、因子1「保育士・教諭としての行動力」において4つの尺度との相関関係が認められた。このことより活動という特性の「行動すること」において、資質・能力が伸長することの示唆を得ることができた。一方、「保育士・教諭としての知識」においては、Big Five 性格特性との相関関係は、活動後の「外向性」以外は認められなかったため、「知識」においては性格特性との関連性は弱いことが明らかとなった。

## VI. おわりに

本研究での検討の結果、認知の度合いは、保育士・教諭としての資質・能力において活動により向上することが明らかとなった。また、その資質・能力の中でも「保育士・教諭としての行動力」において性格との関係性が強いことが明らかとなった。

今後は、保育士・教諭としての資質・能力と性格特性との関係性において、活動の前後や資質・能力の高群低群での比較検討などを進めていきたいと考える。

表7. 保育士・教諭としての資質・能力と Big Five 性格特性の相関係数(専攻の活動前)

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
保育士・教諭としての行動力	0.48**	-0.03	0.41**	0.43**	0.32**
保育士・教諭としての心	0.26*	-0.03	0.04	0.22	0.43**
保育士・教諭としての知識	-0.00	0.07	0.06	0.07	0.06

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

表8. 保育士・教諭としての資質・能力と Big Five 性格特性の相関係数(専攻の活動後)

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
保育士・教諭としての行動力	0.62**	-0.14	0.52**	0.47**	0.36**
保育士・教諭としての心	0.50**	-0.16	0.25*	0.29*	0.50**
保育士・教諭としての知識	0.29*	-0.16	0.23	0.14	0.20

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$